

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農業振興課, 畜産課, 食産業・商業振興課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	2	施策名	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上		

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

【政策評価指標達成状況から】有効
 ・指標名:みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数) 達成度 A
 ・(達成状況の背景)生産基盤の整備等と高品質の生産に向けた技術支援や園芸施設の大規模化が進んでいる。
 ・(達成度から見た有効性) 平成15年冷害被害があったため、生産額が前年より下回ったが、園芸施設の整備等により、目標の10品目を達成している。

【政策満足度から】有効
 ・満足度は過去3回とも60点であることから、施策は有効と認められる。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効
 ・いちごの出荷量は全国順位で10位、きゅうりは9位、ほうれんそうは18位で、肉用牛の飼育頭数は7位と成果を上げている。また園芸施設化等により、しいたけの拡大傾向にあることから施策の効果が認められる。

【総括】
 ・政策評価達成度、政策満足度、社会経済情勢等から効果があり、本施策は有効と認められる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業	6		
2	主	アグリビジネス支援事業(再掲)	7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切 概ね適切 課題有

【国,市町村,民間団体との役割分担】 適切
 ・(国)家畜改良,畜産振興総合対策及び水田を中心とした土地利用型農業活性化対策等の施策実現に関して、中心的な役割を担っている。
 ・(県)園芸をはじめとした多彩な品目の生産と拡大と、県有種雄牛を活用した仙台牛等のブランド産地づくりとして、生産対策と流通対策の支援,人材育成,普及啓発,融資・助成等について、中心的役割を担っている。
 ・(市町村)生産対策と流通対策の支援,普及啓発等について、役割を担っている。
 ・(民間団体)民間団体(JA),事業主体として、園芸施設設備の利用等のストック形成,農産物のトレサビリティの構築,技術向上の研修会の実施,家畜市場の運営や関係データの収集と分析などブランド化の実現に向け,推進を行っている。
 ・本施策に係る事業群は,上記役割分担に沿って設定・実施されており県の関与は適切である。

【施策目的を踏まえた事業か】 適切
 ・生産組織に対する,農畜産物のブランド化と生産性向上のための,超低コスト型養液栽培システムの導入支援,園芸特産重点強化整備事業,高品質な牛づくりの生産振興等の事業の構成となっており,全て施策実現するため必要な事業である。

【事業間で重複や矛盾がないか】 適切
 ・事業対象の業種により,その対策は異なるため,重複や目的が矛盾しない。

【社会経済情勢に適応した事業か】 適切
 ・農産物の価格も低減傾向であるが,食品や農畜産物等に対する安全で安心への消費者・事業者ニーズが高まっているところから,対応した事業である。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 適切
 ・乖離度は20と高い水準にあるところから,各事業とも推進が必要である。

【総括】
 ・施策目的,県の役割分担,事業体系,社会情勢,県民満足度調査の推移から判断して,本施策の事業設定は適切と判断する。

施策番号	2	施策名	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上
------	---	-----	-----------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効

概ね有効

課題有

<p>【施策満足度から】有効 ・施策満足度は過去3回60点と高い。</p> <p>【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋 ・みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数)については、いちご、きゅうり、ほうれんそう、トマト、肉用牛、米等の10品目である。H15の異常気象による冷害で全体的に生産額は下回ったが、10品目は達成した。</p> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効 ・H15の異常気象のため、全体的に下回ったが、指標対象品目10品目のうち、イチゴが73億円と前年より、8億4千万の増となった。ハウス等の施設化が進んだことが要因と考えられる。生しいたけは需要増により生産量における国内産割合が高まりつつある。</p> <p>【業績指標推移から】有効 ・超低コスト宮城型簡易養液栽培普及拡大事業によるトマト、イチゴ生産システム箇所が増加、園芸特産重点強化事業による野菜の施設面積の増、新みやぎアグリビジネス戦略経営体育成支援事業によるきのこ類やみずな、いちご、トマト、菊、ほうれんそう等の導入生産施設から出荷が始まり、各作目において生産量が増えている。</p> <p>【成果指標推移から】有効 ・H15の異常気象災害により全体的に生産額が、全体的に下回ったが、施設栽培等のイチゴ等が前年より増えており、施策の目指す方向に向かっていく。今後も産地改革を志向する事業導入者数は増加が見込まれる。</p>
<p>【総括】 ・施策満足度からも事業群は有効と認められる、また、社会情勢、業務指標から一定の施策の効果が認められることから事業群としては有効と判定される。</p>

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的

概ね効率的

課題有

<p>【施策満足度 業績指標・成果指標】効率的 ・満足度は過去3回60点と高い、業績指標・成果指標とも関連して効率的と評価される。</p> <p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】効率的 ・政策指標は、H15の異常気象災害により影響があったが、施策の目指す方向に推移しており、業績・成果指標とも関連して効率的と評価される。</p> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的 ・H15の異常気象のため、全体的に下回ったが、指標対象品目10品目のうち、イチゴが73億円と前年より、8億4千万の増となった。また、生しいたけの生産量が596tから611tに増え、農産加工品販売額も毎年着実に増加しており、業績・成果指標とも関連して効率的に進んでいる。</p> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね効率的 ・宮城型簡易養液栽培普及事業、野菜産地拡大事業、花き産地拡大事業等については、効率性は高い、ほかの事業はほぼ横ばいで、概ね効率的に事業が実施されたものと判断している。なお成果等生産額は、事業実施年度以降に反映される。またH15の生産額は異常気象災害により全体的に、前年より下回っている。</p>
<p>【総括】 ・政策評価指標等各種データは適切に施策の目指す方向に進んでおり、事業として、効率的に実施されているものと判定される。</p>

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切

概ね適切

課題有

<p>・各種農産物の輸入量の増加、これに伴う価格の低下などにより各種農産物の粗生産額は伸び悩んでいる。こうした中、トマト、ねぎは18億円台に達している。またイチゴは73億円と前回より8億4千万円の伸びるなどの成果を上げており、一定の有効性を有しているものと考えられる。</p> <p>・また、平成13年度からは輸入農産物急増対策としての産地強化事業もスタートしている。さらにH16年度から「米政策改革大綱」に基づいて、平成22年度を目標とした水田農業のあるべき姿の実現に向け、需要に応じた生産に取り組むことから、今後とも成果が期待される。</p> <p>・施策そのものの必要性が認められ、目標の設定も妥当であり、各事業も適切で、有効に機能していると認められている。</p>
--

政策評価指標分析カード(整理番号1)

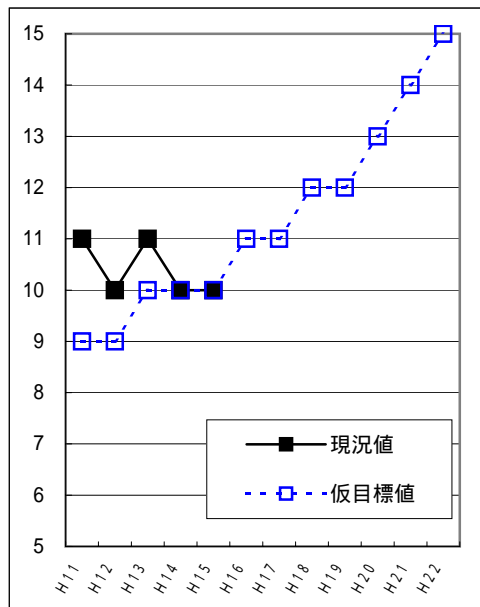
政策整理番号 17

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農業振興課, 畜産課, 食産業・商業振興課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	2	施策名	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数))		品目						
目標値	難易度	H17	11					
		H22	15					
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	
現況値 (達成度判定値)	9		11	10	11	10	10	
仮目標値		9	9	10	10	10	10	11
達成度			A	A	A	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・産地間競争等市場環境の厳しさが増す中で、マーケティングの強化及び生産体制の整備等により本県産品の生産拡大と認知度を向上させ、他産地との差別化を図ることが、本県産業の競争力を強めるため重要であると考え選定した。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A		-		75	75	80					
施策満足度 B		-		60	60	60						
かい離 A-B		-		15	15	20						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
達成度:A ・みやぎ産品認知度・シェア(生産額20億円以上)の達成品目は、いちごきゅうり,ほうれんそう,肉用牛,生牛乳,鶏卵,豚,プロイラー,米,大豆である。 ・H15は異常気象災害のために、全体的に生産額は、前年より下回ったが、仮目標に達した。なお、いちごについては、73億円と前年より8億4千万円増加した。施設化による生産が進んだことが要因と考えられる。	判定:・・・ ・重視度は前年度から5ポイント上昇したが、達成度は過去3回Aで同じで、満足度も過去3回とも同じである。 ・このことから、達成度と満足度との相関は必ずしもあるとはいえない。 相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]
 ・本県野菜・花き等ブランド化と生産性向上を図るためには、安定供給が重要であるので生産額に係る指数は必要であり、現在の設定品目については、施策全体として、本県農畜産物全体の向上を目指し、設定したものである。

事業分析カード(業績)

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農業振興課、畜産課、食産業・商業振興課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	2	施策名	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上		

活動			左記活動(事業)によりもたらされた結果			
事業番号	事業名 [担当課室名]	事業の対象	業績指標名	H14	H15	H16
			事業費(千円)			
			効率性指標 (3.5E-02は3.5 × 10 ⁻²)			
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(超低コスト宮城型簡易養液栽培普及拡大事業)[農業振興課]	県イチゴ、トマト生産者	支援経営体数	6	10	15
			事業費(千円)	4,713	179,260	4,400
			効率性指標	1.3E-03	5.6E-05	3.4E-03
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--野菜産地拡大対策)[農産園芸課]	市町村,農協,法人等	施設増加面積	94,845	92,913	90,033
			事業費(千円)	443,064	447,300	308,136
			効率性指標	2.1E-01	2.1E-01	2.9E-01
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--花き産地拡大対策)[農産園芸課]	市町村,農協,法人等	施設増加面積	4,601	4,694	11,814
			事業費(千円)	72,247	105,041	109,224
			効率性指標	6.4E-02	4.5E-02	1.1E-01
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--果樹産地拡大対策)[農産園芸課]	市町村,農協,法人等	日本なし生産量(t)	4,240	3,790	3,730
			事業費(千円)	30,788	57,504	92,497
			効率性指標	1.4E-01	6.6E-02	4.0E-02
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--野菜価格安定対策事業)[農産園芸課]	宮城県青果物価格安定相互補償協会	予約数量(t)	22,609	19,523	19,650
			事業費(千円)	84,290	111,462	69,736
			効率性指標	2.7E-01	1.8E-01	2.8E-01
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(山の幸振興総合対策事業)[農産園芸課]	市町村及び農林業者で組織する団体等	事業導入者数	7	9	9
			事業費(千円)	15,545	13,927	12,593
			効率性指標	4.5E-04	6.5E-04	7.1E-04
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--特用林産物生産対策)[農産園芸課]	市町村及び農林業者で組織する団体等	事業導入者数	12	11	11
			事業費(千円)	16,607	14,827	62,934
			効率性指標	7.2E-04	7.4E-04	1.7E-04
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(地域特産物新技術新品種導入対策)[農産園芸課]	たばこ耕作組合等	葉たばこ生産量(t)	421	416	402
			事業費(千円)	205	136	136
			効率性指標	2.1E+00	3.1E+00	3.0E+00
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(養蚕文化継承事業)[農産園芸課]	養蚕農家	繭生産量(t)	31	25	22
			事業費(千円)	936	1,137	1,004
			効率性指標	3.3E-02	2.2E-02	2.2E-02
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(特産品認証事業)[農産園芸課]	特産品加工業者等	登録者数	82	73	81
			事業費(千円)	3,210	1,873	706
			効率性指標	2.6E-02	3.9E-02	1.1E-01
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(21世紀みやぎの牛づくり活性化事業)[畜産課]	肉用牛生産者	和牛改良組合	38	38	38
			事業費(千円)	216,446	194,914	287,273
			効率性指標	1.8E-04	1.9E-04	1.3E-04
2	アグリビジネス支援事業(ふるさと食品ネットワーク支援事業)[農産園芸課]	農産加工者組織等	施設導入数	3	0	1
			事業費(千円)	7,799	1,663	9,582
			効率性指標	3.8E-04	0.0E+00	1.0E-04
1	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(新みやぎのアグリビジネス戦略経営体育成支援事業)[農産園芸課]	市町村及び農林業者で組織する団体等	施設面積(m ²)		31,115	30,844
			事業費(千円)		520,851	623,304
			効率性指標		6.0E-02	4.9E-02
			事業費(千円)			
			効率性指標			

施策番号	2	施策名	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上
------	---	-----	-----------------------

活動によりもたらされた成果				施策実現までの道筋 【事業内容 目的】	施策概要
成果指標名	H14	H15	H16		
システム導入面積(a)	72	224	233	施設設置費を抑えられる当システムの導入面積を拡大することにより、生産力が高く競争力のある野菜産地を育成する。	<p>野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上</p> <p>立、稲作の比重が大きい本県農業をよりバランスのとれたものとするため、野菜、花き、果樹、肉牛などのブランドの確</p>
算出額(億円)	303	293		県園芸特産振興基本計画に基づき、県・地域重点振興品目野菜産地に対して必要な生産施設・機械等の整備を推進することにより、産地拡大を図ります。	
算出額	44	42		県園芸特産振興基本計画に基づき、県・地域重点振興品目花き産地に対して必要な生産施設・機械等の整備を推進することにより、産地拡大を図ります。	
粗生産額(億円)	25	21		県園芸振興特産基本計画に基づき、産地改革品目、地域振興品目、新規戦略品目産地に対して必要な生産施設・機械等の整備を推進することにより、産地の改革・拡大を図ります。	
出荷数量に対する補助金交付数量割合(%)	42	51		県内青果物生産者に対し、市場価格が一定水準に低落した場合に交付される価格差補給金の造成により、生産の安定拡大を図ります。	
生しいたけ生産量(t)	568	596	611	しいたけ産地における産地構造改革計画に基づき生産等に要する施設を支援し、地域の特性を生かした産地の形成と、安定的な生産や出荷・流通体制を確立します。	
県内特用林産物(きのこ類)生産量(t)	6,440	6,252	6,337	国内外の需給情勢に大きく左右される特用林産物の振興を図るため、施設整備等を支援し、地域の特性を生かした産地の形成と、安定的な生産や出荷・流通体制を確立します。	
葉たばこ販売額(千円)	754,000	712,000	719,601	高齢化作等による耕作農家数・面積の減少傾向に対応するため、生産から流通に至るまでの情報の収集と提供の支援を行い、安定生産を図ります。	
繭生産額(千円)	57,000	49,000	41,000	産地において機能回復を図りつつ在り方を見直すとともに、担い手が安定的に取り組みできるよう、3齢共同飼育などにより生産者の労力を軽減し、産地の維持やと養蚕文化を継承します。	
認証商品数	13	2	30	県産農畜産物等による地域特産品を公的に認証し、消費者の信頼を確保することで、生産振興と販売拡大を推進する。	
枝肉重量(kg)	439	444	445	資質の高い和牛生産を振興するため、枝肉成績を組織的に取りまとめ、和牛繁殖経営に情報を還元して優良雌牛群の整備を行います。	
施設導入組織累計販売額(千円)	191,855	201,555	206,690	多様な生活者ニーズに対応するため、生産から流通に至るまでの技術・情報の提供と企業化への「転換を図るための施設整備を支援します。	
施設導入組織販売額(千円)			193,485	企業の経営戦略に基づく経営体を育成し、大規模生産品目の作出により地域経済の再生を支援します。	

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 17

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農業振興課、畜産課、食産業・商業振興課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	2	施策名	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上		

C-1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】 施策群設定の妥当性、施策群の有効性
 ・事業群は、野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産向上を促進するとともに、輸入野菜等の急増による価格競争に勝ちうる低コスト化を支援するものである。
 ・アグリビジネス(消費者ニーズをとらえ生産と加工・販売を組合せた高付加価値農業)を推進するための体制整備の支援や各産業の関係機関と県の総合的な支援構築を図る事業である。
 ・よって、当施策群の設定は適切であり、有効に機能すると評価される。

【施策評価】 事業群設定の妥当性、事業群の有効性、効率性
 ・施策に対する満足度は、60で前年度と同じであるが、優先順位は上がった。仮目標値(10品目)と同じであるが、トマト等の生産量は順調に推移していることから事業群は有効に機能していると評価される。

【上記対応により、当該事業を縮小・中止した場合の影響】
 ・該当なし

C-2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H18年度)の方向性とその説明

方向性	拡大	維持	縮小	その他
-----	-----------	----	----	-----

【見直しの視点とその理由】
 ・各種の農産物の輸入量の増加により価格の低減傾向であるところから、生産施設、機械の整備、技術支援等の総合的な支援、普及啓発を通して、高品質で周年生産が可能な野菜、花き、果樹産地拡大、特用林産物の生産・流通・販売の強化を図る必要がある。また、肉用牛の雄牛と雌牛側の双方から組織的な改良を実施し、特色ある牛づくりを推進する必要がある。

【次年度の方向性】
 ・食品や農産物等に対する安全安心への消費者ニーズが高まるなか、消費者ニーズを踏まえた生産振興とブランド化を推進する必要がある。さらに併せて、農産物等の付加価値向上等のため、生産と加工を組み合わせたアグリビジネスの展開も不可欠である。
 またH16に検討した「水田農業改革に向けた取組計画」と今後新たに策定する「園芸特産振興基本計画」をベースに、各地域における「地域水田ビジョン」と連携を図り「売れる野菜・花き、麦、大豆等の新たな展開」に向けた新たな施策を打ち出していく必要がある。

主要事業・重点事業の次年度(H18年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名【H16決算見込額】	方向性	方向性に関する説明
1	主	みやぎの園芸・畜産強化事業(超低コスト宮城型簡易養液栽培普及拡大事業【4,400千円】)	拡大	輸入野菜の急増による価格競争に勝ちうる低コスト生産が求められている。現行の宮城型養液栽培システムの低コスト化、環境変動に対応した管理・制御技術の確立、大規模モデル経営体を拠点とした普及推進等が必要である。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--野菜産地拡大対策)【308,136千円】	拡大	本県の顔となりうる園芸特産物を育成するため、重点振興品目による生産の高度化や付加価値化により、園芸産地の育成、拡大の推進が必要である。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--花き産地拡大対策)【109,224千円】	拡大	本県の顔となりうる園芸特産物を育成するため、重点振興品目による生産の高度化や付加価値化により、園芸産地の育成、拡大の推進が必要である。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--果樹産地拡大対策)【92497千円】	拡大	国の定めた果物消費拡大策に対応し、果樹複合経営などによる作付け拡大、既存品目の安定生産に向けた振興計画を策定し、果樹生産者の経営安定を図る。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--野菜価格安定対策事業)【92,497千円】	拡大	地域水田農業ビジョンと連動した園芸振興により、今後生産拡大が見込まれており、青果物の安定供給と生産農家の経営安定を図る。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(山の幸振興総合対策事業)【12,593千円】	拡大	健康志向によるしいたけの消費拡大が見込まれるので、新品種や新しい栽培技術の開発・普及を通して生産者が効率的な経営に転換できるよう施策誘導を図る。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(園芸特産重点強化事業--特用林産物生産対策)【62,934千円】	拡大	中山間地域における収入源として特用林産物やきのこ類の安定生産が求められており、生産施設の条件整備や出荷流通体制の改善を通じて、地域の特性を生かした生産体系を確立する。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(地域特産物新技術新品種導入対策)【136千円】	維持	需要に応じた生産計画を策定し、契約生産による中山間地生産者の経営安定を図る。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(養蚕文化継承事業)【1,004千円】	維持	中山間地域の農業収入確保と和装文化の維持継承のため、蚕作の安定と省力化を推進する。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業(特産品認証事業)【706千円】	維持	消費者ニーズの多様化に対応し、消費者の信頼を高め正確で分かりやすい食品情報の提供と商品の差別化のため、地域特産品の公的な認証を引き続き推進する。

1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業 (21世紀みやぎの牛づくり活性化事業 [287,273千円])	維持	地域ブランド牛肉の確立に貢献するための県基幹種雄牛の造成・選抜や産肉能力等に優れた雌牛牛群の造成, 受精卵移植技術・DNA解析技術を利用した種雄牛の造成など, 目的達成にはいずれも長期間を要するため, 次年度も継続して実施する。
1	主	みやぎの園芸・畜産強化推進事業 (新みやぎのアグリビジネス戦略経営体育成 支援事業) [623,304千円])	拡大	長引く経済低迷が地方経済に及ぼす影響は大きいことから, 大規模農業生産を通じて地域経済の再生に資するため, 企業的経営体の育成と支援を行っていく。
2	主	アグリビジネス支援事業 (ふいさと食品ネットワーク支援事業) [9,582 千円])	拡大	地場農産物の付加価値向上等による販売を促進し, 農業農村の活性化を図るため, 発展段階に応じた支援が必要である。また, 水林産物の複合型農産加工へ展開を推進し利用拡大を図るために重点的に取り組む必要が